

運営管理

シラバス

(専門課程3年)

令和 4年 4月 18日作成

作成者 草木 康雄

1.	教科・科目名	運営管理		
2.	教員名	草木 康雄		
3.	時間数・単位	1年次 0時間	2年次 5時間	(2年間 5時間 1単位)
4.	科目の目標	①美容業界を志す上で、日常の仕事に必要な心構えから、自分が店を開いて運営していくまでの、「接客」「経営戦略」「経営管理」「労務管理」などを学ぶ。 ②仕事をするということがどういうことなのか、基本的な考え方を身につける。 ③実際に経営する立場になったらということを意識し、就職や勤務の段階で直接役立つと考えられるものをマスターする。		
5.	使用教材	教科書	①日本理容美容教育センター 運営管理	
		問題集	①日本理容美容教育センター ワークブック 、 JHEC編 美容師国家試験合格対策&問題集	
		その他	自作プリント	
6.	評価の方法	期末テストの評価	年1回 合計100点	
		平常学習の評価	小テスト 、 授業態度 、 ノート 、 提出物	
7.	評価の観点	観 点	趣 旨	
		知識・理解	美容業を志す上で知っておかなければならないこと、働く上で必ず知っておかなければならないこと、経営上の責任など、幅広い知識を身につけている。	
		関心・意欲・態度	身近な接客から経営に至るまで、様々な事例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8.	評価・評定の基準	達 成 度	評 価	評 定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	①授業を一番大切にする。教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深めること。		
		②身近な接客や経営管理について、様々な例に興味関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を身につけること。		
		③練習問題をたくさんこなし、美容師国家試験に向け、実践的な力をつける。		
10.	授業計画			
科目名	回	単 元	指 導 内 容	
運 営 管 理	1	1編 1 経営とは・経営者とは(経営管理)	経営者側がどのような事を考え、お客様、スタッフ、社会に対してどのような責任を負い、どのように果たしているか、経営全般について理解させる。	
		2 理容業・美容業の経営について	理容・美容業界の現状と経営の在り方について考えさせる。	
		3 資金の管理	資金管理の重要性の理解を図り、会計やコスト管理の仕方を理解する。税金の申告について理解させる。	
	2	2編 1 人という資源(労務管理)	就職する上で重要な、働くものとしての権利や義務について理解し、自らのキャリアプランを考えることを学ばせる。	
		2 健康・安全な職場環境の実現(健康管理)	美容という仕事の特性から特に考えなくてはならない健康上の問題について理解させる。	
	3	3 従業員としての視点から	公的年金、医療保険、労働保険制度についての理解を図る。キャリアプラン(自己管理と将来設計)	
	4	3編 1 サービス・デザイン	顧客が求める価値の構造と価値を実現するシステムについて理解をさせる。	
		2 マーケティング	良い店とは何か、どうしたら実現でき、また、よい店であり続けられるか、店づくりに求められる専門性を理解させる。	
		3 サービスにおける人の役割(接客)	経営者の声を参考に、美容師として求められる人材像を明らかにし、お客様のために尽くすという視点を学ばせる。予想されるクレームやトラブルとその対応と対処についても理解させる。	
	5	試験、事後指導		

衛生管理

シラバス

(専門課程)

令和 4年4月9日作成

作成者 辻 純子

1.	教科・科目名	衛生管理		
2.	教員名	辻 純子		
3.	時間数・単位	2年次 60 時間 (2年間 90 時間 単位)		
4.	科目の目標	美容師として衛生管理の知識を身に付けることにより、感染症対策、消毒技術をきちんと学ぶ		
5.	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
		問題集	日本能率協会マネジメントセンター(美容師国家試験過去問題集)	
		その他	(社)日本理容美容教育センター(ワークブック)	
6.	評価の方法	期末テスト	年2回 合計200点	
		平常学習評価	授業態度	
7.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	美容師に必要な公衆衛生、感染症、消毒の基礎を学ぶ	
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記対策と問題の解き方を学ぶ	
		関心・意欲	授業時間を有効に使っている	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	教科書と内容についてまとめたプリント、練習問題で知識の確認を行う		
		美容師国家試験に向けて確実に知識の定着を図る		
10.	授業計画			
科目名	単位	単元	指導内容	
衛生管理 2年	1～2	人類と感染症	感染症の歴史を説明し、人類がどのように関わってきたかを学ぶ	
	3～4	感染症の種類と分類	感染症を法律的、侵入経路、病原体の種類など分類する知識を持つ	
	5～7	病原微生物について	細菌・ウイルス・寄生虫・原虫を説明し、学ぶ	
	8～10	感染と発病・病原性の変異	感染と発病の違いや病原性に変異するものがあるということを学ぶ	
	11～13	免疫と予防接種	免疫獲得と法律で定められている予防接種の分類等について学ぶ	
	14～17	感染症予防の三原則	感染症の発生・流行を防ぐ方法について説明し学ばせる	
	18～25	感染症各論	代表的な感染症の病原体・感染経路・症状・予防対策などを学ぶ	
	25～30	具体的な対策の例	感染症の疑いのある接客時の具体的な感染防止対策を学ぶ	
	31～34	消毒と滅菌の定義	消毒と滅菌の違い、それぞれの詳細について学ぶ	
	35～38	美容師と消毒法	美容師法の定めを学ぶ	
	39～40	理学的消毒法	紫外線、煮沸などの理学的消毒法の詳細を学ぶ	
	41～44	化学的消毒法	消毒薬を用いた消毒について具体的に学ぶ	
	45～46	施術における消毒の実例	美容所での消毒法の具体的な使用例を学ぶ	
	47～50	消毒薬希釈法	消毒薬を希釈する際の計算問題の解き方を学ぶ	
	51～53	衛生管理の実施例	美容所における衛生管理要領を学ぶ	
	54～60	公衆衛生・環境衛生	美容師国家試験に向けて公衆衛生・環境衛生の総復習	

衛生管理

シラバス

(専門課程)

令和 3年4月15 日作成

作成者 辻 純子

1. 教科・科目名	衛生管理		
2. 教員名	辻 純子		
3. 時間数・単位	1年次 30 時間 2年次 60 時間 (2年間 90 時間 単位)		
4. 科目の目標	美容師は人の健康にかかわる職業であることから、衛生管理の知識、技術を身に付ける		
5. 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター(美容師国家試験過去問題集)	
	その他	(社)日本理容美容教育センター(ワークブック)	
6. 評価の方法	期末テスト	年2回 合計200点	
	平常学習評価	授業態度	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容師に必要な公衆衛生、感染症、消毒の基礎を学ぶ	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記対策と問題の解き方を学ぶ	
	関心・意欲	授業時間を有効に使っている	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書と内容についてまとめたプリント、練習問題で知識の確認を行う		

10. 授業計画		
科目名	単元	指導内容
衛生管理 1年	公衆衛生の意義と課題	健康の意義、各種統計から課題を考える
	予防医学・母子保健	予防医学の三段階、母子保健を学ぶ
	成人保健・精神保健	生活習慣病、精神保健行政などを学ぶ
	医療介護制度	我が国の医療、介護制度について基本を学ぶ
	環境衛生の概要	環境とは、我々のまわりの環境要因について学ぶ
	空気・水・日光	大気・水の組成と健康、日光と健康について学ぶ
	気候・衣類・住居	季節とのかかわり、衣服の衛生、住居の衛生について学ぶ
	上下水道・廃棄物	公衆衛生にかかる社会基盤としての上水道・廃棄物処理システムを学ぶ
	衛生害虫	健康に関係の深い衛生害虫とその対策を学ぶ
	美容所の衛生管理	具体的な衛生管理の要領を学ぶ

衛生管理

シラバス

(専門課程)

令和 4年4月15 日作成

作成者 渡辺 靖信

1. 教科・科目名	衛生管理		
2. 教員名	渡辺 靖信		
3. 時間数・単位	1年次 30 時間 2年次 0 時間 (1年間 30 時間 単位)		
4. 科目の目標	美容師は人の健康にかかわる職業であることから、衛生管理の知識、技術を身に付ける		
5. 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター(美容師国家試験過去問題集)	
	その他	(社)日本理容美容教育センター(ワークブック)	
6. 評価の方法	期末テスト	年2回 合計200点	
	平常学習評価	授業態度	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容師に必要な公衆衛生、感染症、消毒の基礎を学ぶ	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記対策と問題の解き方を学ぶ	
	関心・意欲	授業時間を有効に使っている	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書と内容についてまとめたプリント、練習問題で知識の確認を行う		

10. 授業計画

科目名	回	単元	指導内容	
衛生管理 1年	1～3	公衆衛生の意義と課題	健康の意義、各種統計から課題を考える	
	4	美容師と公衆衛生	美容師と公衆衛生の関わりを歴史を通じて学ぶ	
	5	保健所と美容業	保健所の機能と業務について学び、美容業との接点を理解する	
	6	母子保健・予防医学	母子保健と予防医学基礎についてを学ぶ	
	7～11	成人・高齢者保健	生活習慣病、介護制度など成人・高齢者制度及び精神保健制度の基礎と課題を学ぶ	
	12～13	環境衛生の概要	環境とは、我々のまわりの環境要因について学ぶ	
	16	空気環境	大気・水の組成と健康、気候と健康の関係などについて学ぶ	
	17～18	衣類・住居	衣服の衛生、住居の衛生について学ぶ	
	19～20	上下水道・廃棄物	公衆衛生にかかる社会基盤としての上水道・廃棄物処理システムを学ぶ	
	21～22	衛生害虫・環境保全	健康に影響を及ぼす衛生害虫とその対策並びに水質汚濁の原因とその対策を学ぶ	
	23～28	感染症の総論	人と感染症の歴史、感染症に関する法律の基礎と微生物の種類などの基礎を学ぶ	

1.	教科・科目名	保健		
2.	教員名	永瀬 文		
3.	時間数・単位	1年次 30時間	2年次 60時間	(2年間 90時間 3単位)
4.	科目の目標	①人体の構造と機能や公衆衛生について基本的な知識を持ち、美容技術と保健との具体的な関連性について学ぶ。 ②美容師国家試験問題対応基礎力を修得する。		
5.	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
		その他	(社)日本理容美容教育センター (ワークブック)	
			美容師国家試験過去問題 教科書を網羅したプリント及びpowerpoint資料	
6.	評価の方法	期末テスト評価	年2回 合計200点	
		平常学習評価	授業の取り組み方	
7.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	美容師に必要な解剖学、生理学等の基礎知識を習得している。	
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験の内容を理解し、問題の解き方を習得している。	
		関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている。	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	教科書と映像等を用いた講義形式で行う。		
		講義の範囲について、教科書を必ず音読する。		
		教科書の内容についてまとめたプリントで確認を行う。各章が終了後小テストを行う。		
10.	授業計画			
	科目名	回	単元	指導内容
保 健		1～3	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称、頭部・顔部・頸部の体表解剖学について学ぶ。
		4～7	骨格器系	骨の種類と構造や骨の連結等構造と、そのはたらきについて学ぶ。
		8～9	筋系	筋の種類と特徴及び、主な骨格筋とそのはたらきについて学ぶ。
		10～14	神経系	神経系の構造及び、そのはたらきについて学ぶ。
		12	感覚器系	視覚について学ぶ。
		13～15	前期テスト準備、前期テスト、事後学	1～12までの範囲について、復習し、前期試験を受験。事後学習をし知識の定着をめざす。
		16～17	感覚器系	聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚、皮膚感覚のそれぞれについて学ぶ。
		18～21	血液・循環器系	血液循環の仕組みと循環経路及び、心臓、リンパ管器系のはたらきについて学ぶ。
		22～23	呼吸器系	気道、肺の構造とガス交換、呼吸運動について学ぶ。
		25～27	消化器系	消化管の構造とはたらき、消化と物質代謝について学ぶ。
		28～30	後期テスト準備、後期テスト、事後学	16～27までの範囲について、復習し、前期試験を受験。事後学習をし知識の定着をめざす。
		31～34	皮膚の構造	皮膚の表面や断面、表皮・真皮・皮下組織の構造について学ぶ。
		35～39	皮膚付属器官の構造	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪の構造及びそのはたらきについて学ぶ。
		40～41	皮膚の循環器系と神経系	皮膚の血管、リンパ管の構造とはたらき、及び皮膚の神経の構造とはたらきについて学ぶ。
		41～46	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、免疫・解毒・排除、再生等の各機能について学ぶ。
		47～56	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身・精神・栄養・嗜好品・体内病変等との関係、ホルモンとの関係、皮膚・毛・爪の手入れ等について学ぶ。
		57～60	前期テスト準備、前期テスト、事後学	31～56までの範囲について、復習し、前期試験を受験。事後学習をし知識の定着をめざす。
		61～76	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の原因と種類、各皮膚疾患の詳細について学ぶ。
		77～79	後期テスト準備、後期テスト、事後学	31～76までの範囲について、復習し、前期試験を受験。事後学習をし知識の定着をめざす。
	80～90	国家試験対策	過去の問題を網羅し、国家試験対策を行う。	

1.	教科・科目名	化粧品化学		
2.	時間数・単位	1年次 30時間、 2年次 30時間 (2年間 60時間 2単位)		
3.	科目の目標	化粧品化学	美容分野に欠かせない化粧品化学の知識を身に付ける	
		その他	美容師国家試験に向けて実践的な力を身に付ける	
4.	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①化粧品科学 ②ワークブック	
		問題集	JHEC(日本美容教育委員会)編 合格対策&模擬問題集	
		その他	美容師国家試験過去問題	
5.	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
		授業の評価	小(章)テスト 年5回 合計500点	
		平常学習の評価	小(課題)テスト 年5回 合計500点	
6.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	化粧品の性状や使用方法・安全性等について学ぶ	
		国家試験対策	美容師国家試験の過去問を中心に解き方を学ぶ	
		関心・意欲・態度	全体・各章・各課題ごとに関連付けて学ぶ	
7.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		100点法による5段階評価	90～100点	5
			80～89点	4
			60～79点	3
			40～59点	2
			0点～39点	1
8.	学習の方法	過去問をちゅゆしんとした学習で理解を深める		
		シラバスの流れを頭に描き、到達目標を確認して効果を高める		
		シラバスの中心に不足しているところ需要なところを見出し参考にする		
9.	授業計画			
科目名	回	単元	指導内容	
化粧品化学 1年生	1～4	化粧品概論	品質特性と機能・安全性・安定性等	
	5～12	化粧品用原料	配合成分の役割の適切な使用方法	
	16～17	基礎化粧品	全般について、使用目的・用法・効果効能	
	18～19	メイクアップ用化粧品	使用される化粧品の使用目的・使用部位と材料	
	20～24	頭皮・毛髪用化粧品	パーマメント・カラーリング・スタイリング・頭皮のケア等	
	25～26	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品・サンケア製品等の作用と配合成分の影響	
	(関連)	基礎科学	化粧品化学に関係している化学的な基礎知識	
	13	まとめ	概論と原料	
	14～15	テスト	前期テスト・事後	
	27～28	まとめ	基礎・メイクアップ・頭皮・毛髪・芳香・特殊	
	29～30	テスト	後期テスト・事後	

1.	教科・科目名	化粧品化学		
2.	時間数・単位	1年次 30時間、2年次 30時間 (2年間 60時間 2単位)		
3.	科目の目標	化粧品化学	美容分野に欠かせない化粧品化学の知識を身に付ける	
		その他	美容師国家試験に向けて実践的な力を身に付ける	
4.	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①化粧品科学 ②ワークブック	
		問題集	JHEC(日本美容教育委員会)編 合格対策&模擬問題集	
		その他	美容師国家試験過去問題	
5.	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
		授業の評価	小(章)テスト 年5回 合計500点	
		平常学習の評価	小(課題)テスト 年5回 合計500点	
6.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	化粧品の性状や使用方法・安全性等について学ぶ	
		国家試験対策	美容師国家試験の過去問を中心に解き方を学ぶ	
		関心・意欲・態度	全体・各章・各課題ごとに関連付けて学ぶ	
7.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		100点法による5段階評価	90～100点	5
			80～89点	4
			60～79点	3
			40～59点	2
			0点～39点	1
8.	学習の方法	過去問をちゅゆしんとした学習で理解を深める		
		シラバスの流れを頭に描き、到達目標を確認して効果を高める		
		シラバスの中心に不足しているところ需要なところを見出し参考にする		
9. 授業計画				
科目名	回	単元	指導内容	
化粧品化学 2年生	1～2	化粧品概論	品質特性と機能・安全性・安定性等	
	3～7	化粧品用原料	配合成分の役割の適切な使用方法	
	8	基礎化粧品	全般について、使用目的・用法・効果効能	
	9	メイクアップ用化粧品	使用される化粧品の使用目的・使用部位と材料	
	10～12	頭皮・毛髪用化粧品	パーマメント・カラーリング・スタイリング・頭皮のケア等	
	13	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品・サンケア製品等の作用と配合成分の影響	
	(関連)	基礎科学	化粧品化学に関係している化学的な基礎知識	
	14～15	テスト	前期テスト・事後	
	16～17	概論	復習と演習問題	
	18～21	原料	復習と演習問題	
	22	基礎化粧品	復習と演習問題	
	23	メイクアップ	復習と演習問題	
	24～27	頭皮・毛髪	復習と演習問題	
	28	芳香・特殊	復習と演習問題	
	29～30	まとめ	復習と演習問題	
31～33	国試対策	過去問		

1. 教科・科目名	文化論		
2. 教員名	加藤誉使子		
3. 時間数・単位	1年次 30時間、2年次 30時間 (2年間 60時間 1単位)		
4. 科目の目標	①美容師としての使命の達成のために必要な美容感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ②美容の業務を全うするために、確かな技術を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚する。		
5. 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター 文化論	
	問題集	(社)日本理容美容教育センター ワークブック	
	その他	プリント、視聴覚教材	
6. 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
	平常学習の評価	プリント提出(授業毎) ・ 授業態度	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容文化の歴史及び沿革について理解している。我が国及び海外における美容ファッションの変遷、流行の心理・影響・意義と役割について理解している。 服飾の原理・意義、歴史のあらまし、衣服の種類、エチケットなどについて理解している。	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	様々な具体例に関心を持ち、自ら考え、意欲的に学ぶ姿勢を身につけている。	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	40～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0点～39点	1
9. 学習の方法	① オリジナル視聴覚教材、教科書、プリントを中心とした学習で基本的理解を深める。		
	② 教科内容に即した課題を与えて、ワークシート学習など、自主的な判断力の向上を図る。		
	③ 練習問題にて、美容師国家試験に向け、実践的な力をつける。		
10. 授業計画	1年次 前期		
	1 OR、総論		
	2 理容業・美容業の発生		
	3 江戸時代および近代の髪型概観		
	4 江戸時代の理容業・美容業		
	5 近代の理容業・美容業		
	6 現代の理容業・美容業		
	7 縄文・彌生・古墳時代		
	8 古代 (飛鳥・奈良・平安時代)		
	9 中世 (平安末・鎌倉・室町・戦国時代)		
	10 近世Ⅰ (戦国末・安土桃山時代)		
	11 近世Ⅱ (江戸時代) 男性髪型		
	12 近世Ⅱ (江戸時代) 男性髪型		
	13 前期まとめ		
	14 テスト		
	15 事後指導		
1年次 後期			

1 近世Ⅱ（江戸時代）女性の髪型
2 近世Ⅱ（江戸時代）女性の髪型
3 近世Ⅱ（江戸時代）化粧・服装
4 和装の礼装
5 近代（明治）
6 近代（大正・昭和20年まで）
7 現代Ⅰ（1945年～1950年代）
8 現代Ⅱ（1960年代）
9 現代Ⅱ（1970年代）
10 現代Ⅲ（1980年代）
11 現代Ⅲ（1990年代）
12 現代Ⅳ（2000年代以降）
13 後期まとめ
14 テスト
15 事後指導
2年次 前期
1 OR、概観
2 古代エジプト
3 古代ギリシャ・ローマ
4 古代ゲルマン
5 中世ヨーロッパ（男性）
6 中世ヨーロッパ（女性）
7 近世Ⅰ（16世紀）
8 近世Ⅱ（17世紀）
9 近世Ⅲ（18世紀）
10 近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め）
11 近代Ⅱ（19世紀）（男性）
12 近代Ⅱ（19世紀）（女性）
13 前期まとめ
14 テスト
15 事後指導
2年次 後期
1 現代Ⅰ（1910年代～1920年代）
2 現代Ⅱ（1930年代～1940年代前半）
3 現代Ⅲ（1940年代後半～1950年代）
4 現代Ⅳ（1960年代）
5 現代Ⅴ（1970年代）
6 現代Ⅵ（1980年代）
7 現代Ⅶ（1990年代～2010年）
8 洋装の礼装
9 テスト
10 事後指導
11 演習
12 演習
13 演習
14 演習

		15 演習	
科目名	回	単元	指導内容
文化論		総論	「理容」「美容」の語義、社会における役割、文化史を知る意義について学ぶ。
		日本の理容業、美容業の歴史	理容業・美容業の発生から現代までの歴史を学ぶ。
		ファッション文化史日本編	縄文時代から現代(2010年)までの我が国の髪型、化粧、服装等、ファッション文化の変遷を学ぶ。
		ファッション文化史西洋編	古代エジプトから現代(2010年)までの海外の髪型、化粧、服装等、ファッション文化の変遷を学ぶ。
		礼装の種類	和装の礼装、洋装の礼装の種類としきたりを学ぶ。

美容技術理論 シラバス (専門課程) 令和 4 年 4 月 1 日作成 作成者 木下ひかる

1. 教科・科目名	美容技術理論		
2. 教員名	木下 ひかる		
3. 時間数・単位	1年次 90時間 2年次 60時間 (2年間 150 時間 単位)		
4. 科目の目標	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる		
	②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる		
	③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的な方法によって把握されなければならない事を強調する		
5. 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①美容技術理論Ⅰ ②美容技術理論Ⅱ	
	問題集	①美容師国家試験の過去問題集 ②ワークブック	
	その他	美容機器・器具・用具・プリント・技術動画・パワーポイント・ウイネット	
6. 評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
	授業中での評価	プリント提出(適宜)・小テスト(適宜)・授業態度・ノート提出	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即して学ばせる	
	関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める 教科書の内容をパワーポイントにより分かりやすく解説する 映像等を用い、教科書の内容の基本スタイルと、現在のヘアスタイルの変化を関連させて解説する 実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける		
10. 指導内容			
科目名	単元	指導内容	
美容技術理論	器具の扱い	(1)美容機器・器具の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
		(2)美容機器、器具の手入れ法や消毒法を具体的に理解させ、正確な実施方法と注意事項を身につけさせる。	
		(3)美容に用いられるその他の電気器具類、備品類、容器類の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。	
	基礎技術	(1)美容技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。	
		(2)美容技術に必要な人体各部の名称を知らせる。	
		(3)美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮すべき基礎知識を知らせる。	
		(1)基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。	
		・スキャルトリートメント	物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪健康状態を保ち発育を促す技術
		・ヘアトリートメント	傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術
		・シャンプーリンス技術	すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪健康な発育を促す技術
		・カットイング技術	毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カットイングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける
	・パーマネット技術	毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ	
	・ウェーブング技術	ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ	
・セッティング技術	基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術		
特殊技術	(1)カラーリング・美顔術・化粧品・マニキュア・ペディキュア等の美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。		
	・カラーリング	ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術	
	・エステ	人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法	
	・メイク	どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段	
	・マニキュア(ペディキュア)	手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術	
和装技術	(1)日本髪基礎知識、技術の実際について学ばせる		
	(2)かつらの種類、あわせ方、かぶせ方について学ばせる		
	(3)和装に関する一般知識、着付け技術について学ばせる		
11. 授業計画			

1	教科・科目名	美容技術理論				
2	教員名	木下 ひかる				
3	時間数・単位	1年次 90時間	2年次 60時間 (2年間 150 時間 単位)			
4	科目の目標	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる ②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる ③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的方法によって把握されなければならない事を強調する				
5	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①美容技術理論Ⅰ ②美容技術理論Ⅱ			
		問題集	①美容師国家試験の過去問題集 ②ワークブック			
		その他	美容機器・器具・用具・プリント・技術動画・パワーポイント・ウイネット			
6	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点			
		授業中での評価	プリント提出(適宜)・小テスト(適宜)・授業態度・ノート提出			
7	評価の観点	観点	趣旨			
		知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即して学ばせる			
		関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか			
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している			
8	評価・評定の基準	達成度	評価	評定		
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5		
		高い程度に達成している者	80～89点	4		
		おおむね達成している者	60～79点	3		
		達成が不十分な者	31～59点	2		
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1		
9	学習の方法	教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める 教科書の内容をパワーポイントにより分かりやすく解説する 映像等を用い、教科書の内容の基本スタイルと、現在のヘアスタイルの変化を関連させて解説する 実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける				
10	指導内容					
	科目名	単元	指導内容			
美容技術理論	器具の扱い	(1)美容機器・器具の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。				
		(2)美容機器、器具の手入れ法や消毒法を具体的に理解させ、正確な実施方法と注意事項を身につけさせる。				
		(3)美容に用いられるその他の電気器具類、備品類、容器類の種類、使用目的、形態と機能、選定法、基本的操作、使用上の注意などを学ばせ理解させる。				
	基礎技術	(1)美容技術の意義を学ばせ、技術を行う場合の心得を知らせる。				
		(2)美容技術に必要な人体各部の名称を知らせる。				
		(3)美容技術を行う場合の技術者の位置と姿勢、身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮すべき基礎知識を知らせる。				
	頭部技術	(1)基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。				
		・スカルプトリートメント	物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術			
		・ヘアトリートメント	傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術			
		・シャンプーリンス技術	すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術			
		・カッティング技術	毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カッティングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける			
		・パーマメント技術	毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ			
		・ウェービング技術	ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ			
		・セッティング技術	基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術			
	特殊技術	(1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア等の美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意などについて学ばせる。				
		・カラーリング	ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術			
		・エステ	人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法			
		・メイク	どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段			
		・マニキュア(ペディキュア)	手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術			
	和装技術	(1)日本髪の基本知識、技術の実際について学ばせる				
(2)かつらの種類、あわせ方、かぶせ方について学ばせる						
(3)和装に関する一般知識、着付け技術について学ばせる						
11	授業計画	月	時数	日	学習内容	ページ数
専門課程23回生 (1年次)	4	1.2	13		【序章】美容理論と美容技術	5～9
		3	15		復習・テスト	
		4	15		美容技術に必要な人体各部の名称	10～13
		5	19		美容技術に必要な人体各部の名称/小テスト	
	6	19		【9章】ネイル技術・概論①	②37～41	

	7	21	爪のカット②	②42
	8	26	テーブルセッティング/道具の名称③	②44・47・4
	9.10	27	①②③確認小テスト	
	11	28	【第1章】 美容用具/主なコーム	15～19
5	12.13	10.11	復習・テスト/ブラシ	20～21
	14.15	12.13	復習・テスト/シザーズ・レザー	22～25
	16.17	18.19	復習・テスト/ヘアアイロン	29～33
	18	25	第1章テスト 復習学習	
	19	26	【第2章】 シャンプーイング	35～41
	20	27	ブラッシング/シャンプーイング	～41
6	21	1	サイドシャンプー	42～44
	22	1	バックシャンプー	45～48
	23	2	小テスト 復習学習	
	24	8	リンス・コンディショナー・トリートメント	49～55
	25	9	スキャルプトリートメント	55～59
	26	10	〃	〃
	27	16	第2章テスト 復習学習	
	28	22	【第4章】 ヘアカッティング	88～91
	29	23	ヘアカッティング	〃
	30	29	〃	92～98
7	31	29	復習テスト/ベーシックなカット技法	99～103
	32	30	シザーズによるカット技法	104～116
	33	6	復習技術	
	34	11	復習テスト 復習学習	
	35	12	レザーカットによるカット技法	117～124
	36	14	復習技術	
	37	19	第4章テスト 復習学習	
	38	20	【第3章】 ヘアデザイン	65～69
	39	21	〃	70～76
	40	26	〃	77～81
8			夏休みの宿題→復習プリント	
	41	31	夏休みのテスト/ヘアデザイン	82～85
9	42	1	第3章テスト 復習学習	
	43	7	前期期末テスト	
	44	8	事後学習	
	45	14	前期学習のまとめ	
前期45時間				
10	1	4	【第5章】 パーマネントウェーブ	127～129
	2.3	6.7	パーマネントウェーブの理論	130～134
	4	11	復習テスト 復習学習	
	5.6	12.18	パーマ剤に関する注意事項	135～137
	7.8	19	パーマネントウェーブ技術	138～146
	9.10	25	復習テスト 復習学習	
12	11.12	26	ワインディングのバリエーション	147～156
	13	1	第5章 章テスト/復習学習	159～
	14	4	【第6章】 ヘアセッティング	159～168
	15.16	8.9	復習テスト/ヘアカーリング	164～167
	17	10	復習テスト/ピニング	174～179
	18	11	復習テスト/ヘアウエービング	180～186
	19.20	16	復習テスト/スキャルプカール	187～192
	21.22	17.18	復習テスト/ローラーカーリング	193～197
	23	24	復習テスト/ブロードライ	198～204
	24	30	復習テスト/アイロンセッティング	205～211

1	25.26	9.14	復習テスト/ヘアカーリング	212～219
	27	14	第6章 章テスト/復習学習	
	28	16	【第7章】 ヘアカーリング概論	211～
	29	21	ヘアカラーの種類	222
	30	21	ヘアカラーのタイプ別特徴	223～225
	31	21	復習 小テスト	
			冬休みの宿題	
	32	10	冬休みの宿題テスト	
	33	11	染毛のメカニズム	226～227
	34	20	色の基本 / 小テスト	228～229
	35	25	毛髪のレベルとアンダートーン	230～232
	36	7	復習 / 小テスト	

理論	2	37	8	パッチテスト・染毛剤使用の注意	223～236
		38	9	ヘアカーリングの道具～技術手順	236～238
		39	15	技術手順	238～240
		40	15	酸性染毛料の技術手順	241～243
		41	17	ヘアカラー復習	
		42	20	小テスト	
		43	20	後期の復習	
		44	22	期末テスト	
		45	27	事後学習	
		後期45時間			

美容技術理論

シラバス

(専門課程)

令和 4年 4 月 1 日作成 作成者 桐山 礼子

1.	教科・科目名	美容技術理論		
2.	教員名	桐山 礼子		
3.	時間数・単位	2年次 60時間 (前期・後期) (2年間 150 時間 単位)		
4.	科目の目標	①美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣を養い、工夫と創造の能力とを身につけさせる		
		②美容器具の正しい取り扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる		
		③優れた美容技術は経験によってだけ得られる者ではなく科学的・合理的な方法によって把握されなければならない事を強調する		
5.	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①美容技術理論Ⅰ ②美容技術理論Ⅱ		
	問題集	①美容師国家試験の過去問題 ②ワークブック		
	その他	プリント・パワーポイント・美容機器・器具・用具		
6.	評価の方法	期末テストの評価	年2回 合計200点	
		授業中での評価	プリント提出(適宜)・小テスト(適宜)・授業態度	
7.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	美容技術の必要な用語・名称・目的・使用上の注意等を学び、基礎的技術論を実際に即	
		関心・意欲・態度	実習中に積極的に取り入れ反映されているか	
		国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	教科書中心の授業を一番重要とし基本的理解を深める パワーポイントを使用したプリント学習で、視覚的な効果により学習成果を上げる 実習と関連性をもたせる事により理解と学ぶ意欲を向上させる ワークブック・問題集など補助教材を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける		
10. 授業計画				
期	回	単元	指導内容	
前期	1～4	美容理論1の復習	美容師国家試験過去問題を用いての重点ポイントの復習とテスト	
	5	7章 エステ	エステティック概論	
	6		皮膚の生理と構造、カウンセリング	
	7		美容におけるマッサージ理論、フェイシャルケア技術	
	8		フェイシャル及びデコルテマッサージ、フェイシャルパック、ボディケア技術、ボディマッサージ	
	9～11	7章 エステの復習、国家試験過去問題演習、章テスト		
	12	8章 ネイル	ネイルの技術概論、技術の種類	
	13		爪の構造と機能、爪のカット形状	
	14		ネイルの技術概論、技術の種類技術と公衆衛生、カウンセリング	
	15		ネイルケア、アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ	
16～18	8章 ネイルの復習、国家試験過去問題演習、章テスト			
19	9章 メイク	メイクアップ概論、顔の形態学的な観察		
20		メイクアップと色彩、皮膚の生理と構造、メイクアップの道具、スキンケア		
21		ベースメイクアップ		
22		アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクアップ、ブラッシュオンメイクアップ		
23		まつ毛エクステンション		
24～26		9章 メイクの復習、国家試験過去問題演習、章テスト		
27～30	7～9章 復習 前期期末テスト、事後			
後期	31～32	前期復習	復習テスト、事後	
	33	10章 日本髪	日本髪の由来、日本髪の各部の名称、日本髪の種類と特徴	
	34		日本髪の調和、日本髪の装飾品、日本髪の結髪道具	
	35		日本髪の結髪技術、日本髪の手入れ、かつら	
	36～37		日本髪復習	
	38～39	11章 着付け	着付の目的、礼装	
	40		着物の季節、着物の種類、着物のいろいろ、帯	
	41～42		小物、着物各部の名称、着物のたたみ方	
	43～44		着付けの一般的要領、着付け技術	
	45	着付け技術、和装花嫁、洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)		
46～48	10章、11章、国家試験過去問題演習、章テスト			
49～54	美容技術理論1、2総復習	ワークブック、国家試験過去問題演習 後期期末テスト、事後		
55～60	国家試験問題演習			

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目						
2	時間数	1年次	420h以上	単位	2年次	480h以上	単位	2年間で900h以上	30単位
3	科目の目標	美容実習	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる ②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。 ③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。						
4	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	①美容実習Ⅰ ②美容実習Ⅱ					
		テキスト	(財)理容師美容師試験研修センター	改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説					
		その他	美容機器・器具・用具・技術動画・パワーポイント						
5	評価の方法	期末テストの評価	年2回 /合計200点						
		授業中での評価	①授業態度 ②学生ごとの実習記録とその評価 ③技術の研鑽に取り組む姿勢						
6	評価の観点	観 点	趣 旨						
		知識・理解	美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。						
		関心・意欲・態度	実習の効果を学生間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。						
		国家試験対策	美容師国家試験の実技試験対策として衛生を含め、各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解して						
7	評価・評定の基準	達成度	評 価		評 定				
		特に高い程度に達成している者	90～100点		5				
		高い程度に達成している者	80～89点		4				
		おおむね達成している者	60～79点		3				
		達成が不十分な者	31～59点		2				
		達成が著しく不十分な者	0～30点		1				
8	学習の方法	(1)美容実習の教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める							
		(2)理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる							
		(3)改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける							
		(4)個別の実習記録簿を作成し管理することで学生個々の技術進捗を把握しやすくし技術の向上を促す							
9	指導内容	単 元	指 導 内 容						
		器具の扱い実習	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる (1)美容器具の操作法、消毒法、手入れ方法を確実に身につけさせる (2)用途に適した美容器具の選択方法について理解させ、実践する能力を身につけさせる						
		基礎技術実習	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識 (1)美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要の基本動作を身につけさせる (2)施設の清掃・消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせる (3)特に器具の消毒についてはその重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけさせる事が必要である						
		頭部技術実習	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる (1)基本的な頭部技術を身につけさせる ・スカルプトリートメント 物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪健康状態を保ち発育を促す技術 ・ヘアトリートメント 傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術 ・シャンプーリンス技術 すべての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術 ・カット技術 毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カットの理論を理解し技術の基本を確実に身につける ・パーマ技術 毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ ・ウェービング技術 ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ ・セッティング技術 基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術 (2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる						
		特殊技術実習	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる (1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ボディケア等の美容の特殊技術を身につけさせる ・カラーリング ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術 ・エステ 人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法 ・メイク どのようなニーズにも適応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段 ・マニキュア(ボディケア) 手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術						
		和装技術実習	日本髪基礎知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる (1)日本髪の結髪技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身につけさせる。						
		総合実習	(1)頭部、特殊技術を適当に組み合わせることで調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。						
10	授業計画	単 元	授 業 内 容						

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目		
2	時間数	1年次	420h以上	単位	2年次 480h以上 単位 2年間で900h以上 30単位
3	科目の目標	美容実習	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる ②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。 ③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。		
4	使用教材	教科書 テキスト その他	(社)日本理容美容教育センター ①美容実習Ⅰ ②美容実習Ⅱ (財)理容師美容師試験研修センター 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 美容機器・器具・用具・技術動画・パワーポイント		
5	評価の方法	期末テストの評価 授業中での評価	年2回 /合計200点 ①授業態度 ②学生ごとの実習記録とその評価 ③技術の研鑽に取り組む姿勢		
6	評価の観点	観点・知識・理解 関心・意欲・態度 国家試験対策	美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。 実習の効果を学生間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。 美容師国家試験の実技試験対策として衛生を含め、各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解し		
7	評価・評定の基準	達成度	評価	評定	
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5	
		高い程度に達成している者	80～89点	4	
		おおむね達成している者	60～79点	3	
		達成が不十分な者	31～59点	2	
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1	
8	学習の方法	(1)美容実習の教科書中心の授業を重要とし基本的理解を深める (2)理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる (3)改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける (4)個別の実習記録簿を作成し管理することで学生個々の技術進捗を把握しやすくし技術の向上を促す			
9	指導内容	単 元	指導内容		
		器具の扱い実習	全ての美容技術に必要な器具類の名称・使用目的・形態の機能・基本操作法・使用上の注意を学ばせる (1)美容器具の操作法、消毒法、手入れ方法を確実に身につけさせる (2)用途に適した美容器具の選択方法について理解させ、実践する能力を身につけさせる		
		基礎技術実習	美容技術の施術に必要な心得・人体名称・技術者の作業姿勢・その他技術を行うに考慮すべき基礎知識 (1)美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要の基本動作を身につけさせる (2)施設の清掃・消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身につけさせる (3)特に器具の消毒についてはその重要性を十分に認識させるとともに、適正な方法で実施することを習慣づけさせる事が必要である		
		頭部技術実習	基本的な頭部技術の目的・種類・特徴・技術上の注意などについて学ばせる (1)基本的な頭部技術を身につけさせる ・スカルプトリートメント 物理的・化学的な作用を頭部に与えて頭部の皮膚、毛髪の健康状態を保ち発育を促す技術 ・ヘアトリートメント 傷んだ毛髪を人工的に補強しそれ以上傷まないように保護する事を目的とする技術 ・シャンプーリンス技術 全ての美容技術の基礎であり血行促進を初めとする生理的な働きを助け毛髪の健康な発育を促す技術 ・カットイング技術 毛髪の長さ調整と疎密さを整えることを目的とし、カットイングの理論を理解し技術の基本を確実に身につける ・パーマネント技術 毛髪に対して道具や薬剤を用いて毛髪の構造や形状をウェーブ状に変化させヘアスタイルをつくる為の手段の一つ ・ウェーブング技術 ウェーブを作り出す技術、ヘアスタイルをつくるための手段の一つ ・セッティング技術 基礎的なオリジナルセットと仕上げのリセットと二つの段階を経てヘアスタイルを作る技術 (2)この際使用する器具は毎回必ず消毒することを身につけさせる		
		特殊技術実習	美容特殊技術の目的・種類・特徴・技術上の注意点などについて学ばせる (1)カラーリング・美顔術・化粧・マニキュア・ペディキュア・等の美容の特殊技術を身につけさせる ・カラーリング ファッションの領域を超え生活習慣の一部として定着した技術 ・エステ 人の容姿を美しく整える事を目的とした毛髪美粧以外の全身に係わる美容法 ・メイク どのようなニーズにも対応するための多面的な知識を持ち、単に顔の表面に色をのせるのではなく目的にあった顔づくりをする為の手段 ・マニキュア(ペディキュア) 手足の爪の手入れをいい、広い意味では手指(足)の爪を衛生的に美しくする技術		
		和装技術実習	日本髪の基本知識・かつら・和装に関する基礎知識・着付け技術について学ばせる (1)日本髪の結髪技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身につけさせる。		
		総合実習	(1)頭部、特殊技術を適当に組み合わせることで調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身につけさせる。		

10	授業計画	月	時数	項目	内容		
		4	2	美容技術を学ぶにあたって	美容技術のカリキュラムの説明と、衛生準備についての諸注意		
			2		実習の進め方、テーブルセッティングについて		
			2	美容用具	美容用具の確認と名称、美容用具の取り扱い		
			3	ブロッキングの基本	コーの使い方、ダッカークリップ・輪ゴムの使用方法、作業姿勢		
			2	ブラッシング	ブラシの種類と、使用方法、ブラッシング技術		
			8	ヘアアレンジ	一束技術		
			3		三つ編み、編み込み、ヘアアレンジ		
			1	ワインディング(オールパーパス)	10ブロッキングの展示・実践、スライス、コーミングの展示・実践		
			8	ブロッキング	10ブロッキングタイム5分		
			6	ワインディング・センター		上巻き展示・実践 ※上巻き確認	
			6			下巻き展示・実践 ※下巻き確認	
			53	2	ヘアカッティング		頭部ブロッキングと、シザーズワーク(開閉練習)
		8					ブラントカット(ワンレングス)
		5	43	5	1		ブロッキング5分
					2		センター
					2	ワインディング(オールパーパス)	バックサイド
					2		サイド
					8		全頭50分(ブロッキング5分)
				12	ヘアカッティング	レザーカット(レイヤー)	
				7	ヘアアレンジ	一束からのシニオン	
				6	まつエク	テープワーク、装着	
		3	ネイル	ネイルアート課題			
		6	47	8	9	ヘアアレンジ	一束からのシニオン30分(作品発表)
					15	ワインディング(オールパーパス)	全頭50分(ブロッキング5分) 昼間試験(レベルチェック)
					5	まつエク	装着20分で20本
					15	サイドシャンプー①	シャンプー展示・実践(16人×2) ワインディングと同時
		3	トリートメント技術	トリートメント塗布展示・実践			
		7・8	30	8	10	ワインディング(オールパーパス)	全頭40分(ブロッキング5分)
					12	サイドシャンプー②	実践(16人×2)ワインディングと同時
					2	スキャルプトリートメント	スキャルプトリートメント展示・実践
		6	カッティング	セニングシザーズの使い方(スタイルづくり)			
		8		夏休みの宿題		ワインディング(オールパーパス)30分	
						アレンジ作品のフォト	
		9	37	9	19	ワインディング(オールパーパス)	全頭35分(ブロッキング5分)
					2	期末試験	ワインディング(オールパーパス)全頭35分(ブロッキング5分)
					4	ヘアカッティング	ウェーブウィッグ レザーカット(レイヤー)
					3	ウィッグパーマ(ストレート)	ウェーブウィッグ
					9	パーマメントウェーブ	ウェーブウィッグのワインディング展示・実践 2浴式コールドパーマ施術プロセス展示・実践
		前期	210	時間			
		10	35	10	17	ワインディング 学習成果競技大会	ワインディング(オールパーパス)全頭35分(ブロッキング5分)
					1	国家試験課題	構成とプロセス説明、ブロッキング展示・実践
					2		ブロッキング
					2		巻き方(オンベース、1/2オフベースの巻き方)説明展示・実践
2	ワインディング(デザイン巻き)				角度による収め方展示・実践		
5					全頭40分		
6					全頭35分		
11	30	11	3	フィンガーウェーブ①	ワンスストローク、リッジのつなぎ展示・実践		
			5		ピンカール(クロッキノールカール)展示・実践		
			12	フィンガーウェーブ②	全頭35分 確認テスト		
10	ワインディング(デザイン巻き)	全頭35分					

	12	7	フィンガーウェーブ③	全頭30分 確認テスト
		10	ワインディング(デザイン巻き)	全頭30分
	26	9	ヘアアレンジ	クリスマス、お正月お出かけヘアアレンジ 作品撮影
			冬休みの宿題	ワインディング30分 ネイルアート「理美容甲子園テーマ」
	1	15	ワインディング	ワインディング(デザイン巻き)全頭25分 期末テスト
		15	オールウェーブ	フィンガーウェーブ全頭20分 期末テスト
	39	9	カラー	ブリーチ
		9	ヘアケア講習	外部講師
	2	9	アップスタイル講習	
		9	カット講習	
	53	10	国試レイヤーカット	国試課題レイヤーカットブロッキング(2)→カット(8)カットの手順と、カットのポイント
		8	ワインディング	デザイン巻き全頭25分
8		オールウェーブ	リフトカール、メイポールカールの展示、実践	
3	9	カラー	ホイルワーク	
	9	ワインディング	デザイン巻き全頭25分 確認テスト	
	9	オールウェーブ	全頭35分 確認テスト	
27				
後期	210	時間		

1	教科・科目名	美容実習	本科目は美容理論とあいまって、美容師として必要な技術を身につけさせるための基礎となる科目			
2	教員名	桐山 礼子				
3	時間数	前期 230時間	後期 250時間	合計 480時間	単位 2年間で900h以上 30単位	
4	科目の目標	①美容業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得する為、基本的操作を確実に身につけさせると共にこれらの基本的操作を適宜組み合わせる技術を習得させる ②美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身につけさせる。 ③個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身につけさせる。				
5	使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター ①美容実習Ⅰ ②美容実習Ⅱ			
		テキスト	(財)理容師美容師試験研修センター 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説			
		その他	美容機器・器具・用具・パワーポイント			
6	評価の方法	期末テストの評価	年2回 /合計200点			
		中間テスト	6月 100点			
		授業中での評価	①授業態度 ②生徒ごとの実習記録とその評価			
7	評価の観点	観 点	趣 旨			
		知識・理解	美容技術理論の学習状況に配慮しつつ、理論と実習との連携を図って、美容師としての専門技術を効果的に習得させ基本的な技術を確実に身につけさせる。			
		関心・意欲・態度	実習の効果を生徒間で評価させ技術向上のための刺激を与え学習効果と学習意欲を高めるようにする。			
		国家試験対策	美容師国家試験の実技試験対策として各課題の構成・ポイントを理解し正確な作業手順と技術を理解している			
8	評価・評定の基準	達成度	評価	評定		
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5		
		高い程度に達成している者	80～89点	4		
		おおむね達成している者	60～79点	3		
		達成が不十分な者	31～59点	2		
9	学習の方法	(1) 国家試験課題中心の授業を一番重要とし基本的理解を深める				
		(2) 理論と関連性をもたせる事により技術に対する理解を深めさせ学ぶ意欲を向上させる				
		(3) 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説など補助教材(テキスト)を用いて美容師国家試験に向けて実践的な力をつける				
		(4) サロンワークで使用する基本的技術、実践的な技術を身につける				
		(5) 個別の実習ノートを作成させ、管理することで学生個々の技術進捗を把握しやすくし技術の向上を促す				
10	授業計画					
科目	回	単元	指導内容			
美容実習 前期	1～5	ワインディング	国家試験第二課題 25分、配列の確認、早巻き練習			
	6～10	カット	セイムレングスカット			
	11～15	ワインディング	国家試験第二課題 25分			
	16～25	オールウェーブ	国家試験第二課題 35分			
	26～30	ワインディング	国家試験第二課題 23分			
	31～45	シャンプー	バックシャンプー ブラッシング、タオル・クロスかけ、シャンプー&トリートメント技術			
	46～55	カット	国家試験第一課題 レイヤーカット カット理論、構成、手順解説			
	56～65	ワインディング	国家試験第二課題 20分(ブロッキング別)			
	66～75	オールウェーブ	国家試験第二課題 30分			
	76～85	ネイル	ネイルアート			
	86～95	ワインディング	オールパーパス			
	96～100	中間テスト	ワインディング 20分(ブロッキング別)、オールウェーブ30分			
	101～120	カラー	デザインカラー			
	121～130	カット	国家試験第一課題 レイヤーカット 40分			
	131～145	ワインディング	オールパーパス			
	146～150	カット	グラデーションカット			
	151～155	カット	メンズカット			
	156～160	ブロー	ブロー技術、アイロン技術			
	161～175	アップ	夜会巻き、日本髪			
	176～190	カット	国家試験第一課題 レイヤーカット 35分			
	191～205	オールウェーブ	国家試験第二課題 25分			
	206～215	ワインディング	国家試験第二課題 20分(ブロッキングこみ)			
	216～220	衛生管理技術	国家試験衛生管理技術に準じた技術			
	221～230	期末テスト	国家試験第一課題 カット 35分、国家試験第二課題 ワインディング20分、オールウェーブ25分、事後学習			
	美容実習 後期	231～240	制作1	カット1スタイル、カラー、スタイリング		
		241～250	制作2	アップ オリジナル作品		
251～260		ワインディング	国家試験第二課題 19分(ブロッキングこみ)			
261～275		カット	国家試験第一課題 レイヤーカット 25分			
276～290		国家試験衛生技術	衛生技術(器具・用具の準備、取り扱い方法、衛生的な技術など)			
291～295		カット	国家試験第一課題 レイヤーカット 25分			
310～330		第二課題	第二課題 国家試験のタイム			
331～350		カット	国家試験第一課題 レイヤーカット 20分			
351～360		カラー	デザインカラー			
361～370		カット	バリエーション			
370～400	国家試験対策	国家試験演習				
401～410	期末テスト	国家試験に準ずる、事後学習				
411～430	国家試験対策	国家試験直前対策				

メイクアップ シラバス (専門課程) 令和 4年 4月 17日作成 作成者 平松 眞治

1.	教科・科目名	メイクアップ		
2.	教員名	平松 眞治		
3.	時間数・単位	1年次 60 時間 2年次 30 時間 (2年間 90 時間 単位)		
4.	科目の目標	3級、2級テキストを使用し、メイクの基本からトータルメイクまでの実技の習得、及び、筆記試験対策としての座学の勉強		
5.	使用教材	テキスト		
6.	評価の方法	実技、筆記試験 実技試験(減点法)及び筆記試験		
		平常学習評価 授業態度		
7.	評価の観点	観点	趣旨	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1	
9.	学習の方法			
10.	授業計画			
	科目名	回	単元	指導内容
メイク		1	オリエンテーションetc	JMA3級、2級説明、道具出し、実技デモスト、セッティングの仕方をレッスン
		2	スキンケア1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジング、クレンジングをウィッグでレッスン
		3	スキンケア2	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングから乳液までウィッグでレッスン
		4	スキンケア3	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングから下地クリームまでウィッグでレッスン
		5	ベースメイク1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからファンデーションまでウィッグでレッスン
		6	ベースメイク2	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからパウダーまで相モデルでレッスン
		7	3級トータルベースメイク1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングかチーク、ハイライト、まで相モデルでレッスン
		8	3級トータルベースメイク2	前回までのレッスンを踏まえて、時間内にできるように相モデルでレッスン
		9	3級トータルベースメイク3	前回までのレッスンを踏まえて、時間内にできるように相モデルでレッスン
		10	3級トータルベースメイク4	前回までのレッスンを踏まえて、時間内にできるように相モデルでレッスン
		11	3級トータル試験リハーサル	3級実技試験の内容に沿って、セッティング、服装、実技メイクに至るまでリハーサルをする
		12	補充メイク	
		13	メイクアップ技術検定3級	3級実技試験
		14	2級スキンケアまで1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングから乳液まで相モデルでレッスン
		15	2級スキンケアまで2	前回の復習を兼ねて、ポイントクレンジングから乳液まで相モデルでレッスン
		16	2級ベースメイク1	手技、手順に沿って、ポイントクレンジングからパウダーまで相モデルでレッスン
		17	2級ベースメイク2	前回の復習を兼ねて、ポイントクレンジングからパウダーまで相モデルでレッスン
		18	2級トータルメイク1	ポイントクレンジングからベースメイク及びアイブロウまで
		19	2級トータルメイク2	ポイントクレンジングからベースメイク及びアイメイクまで
		20	2級トータルメイク3	ポイントクレンジングからベースメイク及びリップまで
		21	2級試験リハーサル(相モデル)	2級実技試験の内容に沿って、セッティング、服装、実技メイクに至るまでリハーサルをする
		22	メイクアップ技術検定2級	2実技試験
		23	メイクアップ	トレンドメイク(2022に流行するメイクの提案及び実技1
		24	メイクアップ	トレンドメイク(2022に流行するメイクの提案及び実技2

メイクアップ シラバス (専門課程) 令和 4年 4月 17 日作成 作成者 平松 眞治

1. 教科・科目名	メイクアップ		
2. 教員名	平松 眞治		
3. 時間数・単位	1年次 60 時間 2年次 30 時間 (2年間 90 時間 単位)		
4. 科目の目標	日本メイクアップ協会3級、2級テキスト及び美容技術理論2(第9章メイクアップ)を使用した、実技や筆記試験対策としての座学の勉強、さらにテキストや教科書にない、JMA1級(4パターン)対策、年代別メイク、傷メイクなどスキルアップになる実技。		
5. 使用教材	テキスト	JMA3級、2級公式テキスト	
	教科書	美容技術理論2	
6. 評価の方法	実技、筆記試験	実技試験(減点法)及び筆記試験	
	平常学習評価	授業態度	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法			

10. 授業計画			
科目名	回	単元	指導内容
メイク	1	復習メイク	JMA2級検定のメイクのセッティング、ポイントメイクの復習
	2	配色メイク	色相環をベースにアイカラーの多色配色のデッサン及びは配色を使つての似合わせメイク
	3	強調メイク	アイブロー、アイライン、リップ、チークのどれかを強調し、ポイントにした似合わせメイク
	4	イメージメイク(フレッシュ)	フレッシュのポイントメイクの説明、デッサン描き、相モデルで実技レッスン
	5	イメージメイク(キュート)	キュートのポイントメイクの説明、デッサン描く、相モデルで実技レッスン
	6	イメージメイク(クール)	クールのポイントメイクの説明、デッサン描く、相モデルで実技レッスン
	7	イメージメイク(エレガント)	エレガントのポイントメイクの説明、デッサン描く、相モデルで実技レッスン
	8	イメージM(実技試験リハーサル)	4パターンからモデルの似合うイメージを見つけて、相モデルでポイントメイクの実技レッスン
	9	テスト(デッサン&イメージM実技試験)	4パターンからモデルの似合うイメージを見つけて、イメージデッサン&相モデルでポイントメイクの実技試験
	10	60年代メイク	1920年代～2022のメイクの歴史を学び、60年代イメージの強調メイク(付けまつげの付け方)
	11	70年代メイク&老人メイク	70年代イメージの強調メイク(アンダーまつ毛)、デッサン用紙に自分の40年後のイメージ書き
	12	ハロウィンメイク	アザ、傷などの特殊メイクのレッスン
	13	シュウウエムラメイク(美容技術理論2)	教科書(9章メイクアップ)に準じてのスキンケア～ベースメイクを相モデルでレッスン
	14	シュウウエムラ実技試験リハーサル	筆記試験範囲の説明、教科書(9章メイクアップ)に準じて相モデルで実技リハーサル
	15	筆記試験、シュウウエムラ実技試験	筆記試験(20分)スキンケアからベースメイクまでの手技手順を相モデルで実技試験(20分)

エステティック シラバス (専門課程) 令和 4年 4 月 26 日作成 作成者 清生 陽子

1.	教科・科目名	エステティック		
2.	教員名	清生 陽子		
3.	時間数・単位	1年次 30 時間2年次 0 時間 (2年間 30 時間 単位)		
4.	科目の目標	トータルで働けるように知識をを深めよう 皮膚の構造やカウセリングを勉強しよう		
5.	使用教材	教科書	美容技術理論2	
	実習道具	ウイッグ、クランプ、タオル、化粧品		
6.	評価の方法	テスト		
		授業態度		
		忘れ物		
7.	評価の観点	観点	趣旨	
		テスト	60点以上(赤点ではない)	
		授業態度	寝ていないこと。周りに話しかけて迷惑をかけること。	
		忘れ物	授業に臨む姿勢。授業ができないのはNG。	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	教科書を使って知識の習得		
		ウイッグとプリントを使った実技		
10. 授業計画				
	科目名	回	学習内容	
エ ス テ		1	オリエンテーション	
		2	エステティックとは	
		3	エステティック概論	
		4	皮膚の構造	
		5	皮膚の構造	
		6	カウセリングについて	
		7	フェイシャルケア(基礎ケア)	
		8	フェイシャルケア(夏ケアUV)自分の	
		9	美容におけるマッサージ理論	
		10	ウイッグを使って実技(クレンジング～マッサージ)	
		11・12	ウイッグを使って実技	
		13～15	テスト	
		16	衛生と消毒	
		17・18	フェイシャルケア(冬ケア)	
		19～21	実技	
		22	肌トラブル(ニキビ、シ、シワ、肌あれ)	
		23・24	栄養や食事について	
		25～27	実技	
		28～30	テスト	

ネイル シラバス (専門課程 2年) 令和 3年 5月 11 日作成 作成者 伊藤侑子

1. 教科・科目名	ネイル		
2. 教員名	伊藤侑子		
3. 時間数・単位	1年次 時間 2年次 10 時間 (2年間 40 時間 単位)		
4. 科目の目標	ジェルネイルの道具の扱い方、手順を学び、技術・知識を身につける ジェルネイル技能検定初級対応基礎力の習得、アート技術の習得		
5. 使用教材	教科書 JNAテクニカルシステム ジェルネイル		
	問題集 ネイリスト技能検定試験 公式問題集		
6. 評価の方法	期末テスト評価 年1回 合計100点		
	平常学習評価 授業態度		
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	ジェルネイルの使用方法、基礎知識をつける	
	技能検定対策	ジェルネイル技能検定初級程度の技術を身につけている	
	関心・意欲・態度		
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	テキスト用いた講義形式		
	デモンストレーション後、プラクティスハンドやチップへの施術による実技練習		
10. 授業計画			
科目名	回	単元	指導内容
ネイル		1、5/10	1.爪や衛生管理に関する知識や、ジェル用材の特徴を知る
			2.プレパレーションの重要性を知り、正しいサンディングの手順を身につける。
			3.はみ出さず、適切な量のベースジェルを塗る練習。ハンド使用
		2、5/17	4.カラージェルをムラ、はみ出し、溜まりなく塗る練習。
			5.トップジェルを凸凹なく塗布する練習。
		3、5/24	6.7.ピーコックアート
		4、5/31(テスト)	8.9.10.ジェル検定初級第二課題の手順に沿って、ハンドに通して施術
		(検定対策.補充) 6/3	ジェル検定受験者 補充対象者
		5、6/14	11.12.アート作品下書き 大会出場者は彩り
		6、6/21	13.14.15.アート作品制作
	7、6/28	16.17 テスト	
	8、7/6	18.19.20. ジェルを使ったアートをデモ後練習	

ネイル シラバス (専門課程 1年) 令和 4年 4月 17日作成 作成者 伊藤侑子

1. 教科・科目名	ネイル		
2. 教員名	伊藤侑子		
3. 時間数・単位	1年次 39 時 2年次 時間 間 40 時間 単位)		
4. 科目の目標	ネイルの道具の使用方法や爪に関する知識を正しく理解し、基本的なネイルサービスの技術を身につける ネイリスト技能検定3級対応基礎力習得、ネイルペイントアートの楽しさと技術を学ぶ		
5. 使用教材	教科書 JNAテクニカルシステム ベーシック		
	問題集 ネイリスト技能検定試験 公式問題集		
6. 評価の方法	期末テスト評価	年1回 合計100点 ペーパーテストなし、3級の工程	
	平常学習評価	授業態度	
		過去問題などの課題	
		ペイントアートチップなどの実技課題の提出	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	ネイルの基礎知識をつける	
	技能検定対策	ネイリスト技能検定程度の技術を身につけている	
	関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書を用いた講義形式と、相モデル、プラクティスハンドやチップへの施術による実技練習		
10. 授業計画			
科目名	単元	指導内容	
1、4/19		1.オリエンテーション・教材説明・セッティング方法・手指消毒を覚える	
		2.爪の構造・カットスタイル座学 ハンド使用方法、ファイル面取り	
2、4/22		3.ファイリングデモ後練習 宿題:ハンドにラウンド5本	
		4.相モデルでファイリング練習	
3、4/26		5.6.カラーリングデモ後シートで練習 相モデルでカラーリング 宿題:シートに赤ポリ	
		7.8.9.アートの基本、フラワーアート デモンストレーション後 練習 宿題:シートにフラワーアート	
4、5/13		10.フラワーアート練習 直し	
		11.12.キャラアートデモ後 練習 (大会選手は彩りアート練習)	
5、6/7		13.自分で決めたアート作品の下書き	
		14.15.作品制作	
6、7/13		16.17.衛生消毒etc. テキスト座学	
		18.カラーリング仕上げ	

7、7/20	19.20.21. カラーからアートの流れを相モデルで練習
8、8/30	22.23.24..ネイルケアをデモ後 練習
9、9/6	25.検定の手順、注意事項etc. オリエンテーション
	26.27. 検定の手順で相モデルでケア練習
10、9/13	28.美容技術理論2に沿って、リペア技術の習得
	29.30 片手通し
11、9/20	31.32.33.通し練習 相モデル
12、10/5	34.35.36.通しテスト
13、10/18	37.38.39.検定対策

パーソナルカラー シラバス (専門課程) 令和 4年 4月 15日作成 作成者 難波 真知子

1.	教科・科目名	パーソナルカラー		
2.	教員名	難波真知子		
3.	時間数・単位	1年次 33 時間2年次 時間 (2年間 33 時間 単位)		
4.	科目の目標	クライアントに適切なカラーアドバイスができるようになること		
5.	使用教材	色彩活用パーソナルカラー検定公式テキスト3級、2級		
		新配色カード199a		
6.	評価の方法	期末テスト 年2回 合計200点		
		平常学習評価 提出物等、授業態度、小テスト		
7.	評価の観点	観点	趣旨	
		知識・理解	美容師に必要なパーソナルカラーの基礎知識をつける	
		関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている	
8.	評価・評定の基準	達成度	評価	評定
		特に高い程度に達成している者	90～100点	5
		高い程度に達成している者	80～89点	4
		おおむね達成している者	60～79点	3
		達成が不十分な者	31～59点	2
		達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9.	学習の方法	座学とワークプリント及びドレーピングの実習		
10.	授業計画			
	科目名	回	単元	指導内容
パーソナルカラー		1	パーソナルカラーの基本	3級テキストP6～P24 ワークシート作成(色相環・トーン表)
		2	色のイメージを豊かにする	3級テキストP26～P51 シーズンカラーボードの作成
		3	「似合う色」の基準を知る	3級テキストP54～P84 4シーズンのコラージュ作成
		4	ドレーピングのテクニック	3級テキストP86～P106 及びドレーピング
		5	「似合う色」の取り入れ方	3級テキストP132～P156 ファッション・メイクのワークシート作成
		6	パーソナルカラーの復習	色彩理論及び色素チェックまでの復習
		7	テスト事前復習及びテスト	前期テスト
		8	事後対策及び3級検定対策	3級検定過去問題(実施版)
		9	色彩学の基本	宿題テスト 及び2級テキストP7～P56
		10	色彩技法とパーソナルカラーへの活用	2級テキストP58～P92 配色練習問題
		11	アドバイスのシミュレーション	色彩技法の復習及び 2級テキストP94～P110
		12	色素アドバイス及びドレーピング	2級テキストP112～P154 及び配色のワークシート作成
		13	様々なアイテムへの活用	2級テキストP156～P178 及びドレーピング実習
		14	アドバイステクニック	2級テキストP156～P195 及びアイテムのコラージュ作り
		15	パーソナルカラーの復習	テキスト全般
		16	テスト及び2級検定対策	後期テスト 及び2級検定過去問題(実施版)
		17	2級検定対策	2級検定過去問題(実施版)

1. 教科・科目名	山野流着装 初中伝コース		
2. 教員名	清水千香子		
3. 時間数・単位	1年次 48時間 2年次 時間 (2年間 時間 単位)		
4. 科目の目標	①ゆかた・小紋の自装と留袖・振袖の他装技術を身につけることができる ②ミセスの礼装・盛装である留袖着付け・帯結びの実技試験(査定)を目指す ③山野流着装教室 初中伝許状を取得できる		
5. 使用教材	着物着付け教本 一般社団法人 国際美容協会 山野愛子ジェーン 各種着物・帯等		
6. 評価の方法	留袖着付け技術 評価の割合 40% 帯結び技術 評価の割合 40% 受講態度 評価の割合 20%		
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・技術	着物の着付け帯結びの技術を身に付ける	
	査定対策	時間内に準備・着付け技術・帯結びの技術を正確にし、尚且つお客様に対するご挨拶をきちんとしているか評価する	
	関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている。	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	各回のテーマの講義・技術展示説明後、自装・他装の実技実習を行う 毎回、個々の技術確認をし、理解できるように進める		
10. 授業計画			
科目名	単元	指導内容	
着付け	マナー	ご挨拶の仕方について(座礼の仕方・立礼の仕方・玄関に入る時・履物についての作法等)	
	補正	体型別補正の仕方について・ランジェリー、キャミソールの補正の仕方について	
	ゆかた	種類、細帯の知識・ゆかたの着付けの準備、着付け・女子の半幅帯の結び方3種類 男子の角帯の結び方1種類・袖だたみの仕方、本だたみの仕方	
	長襦袢	長襦袢に愛好衿を付ける、長襦袢の着方・たたみ方	
	小紋	肌着の準備・小紋の着付けポイント、実習・名古屋帯の結び方(全通・無地)・帯揚げの 整え方、帯締め <small>の</small> 整え方・夜具だたみ・小紋、帯のたたみ方	
	振袖	振袖の着付けと帯結び・二枚扇の結び方(お太鼓形の基本) 帯のゴールデンポイントの 決め方・帯揚げの形づけ方・振袖のたたみ方	
	留袖	ミセスの第一礼装留袖について 比翼衿のとじ方と準備・長襦袢の衣紋の抜き加減につい て留袖の着付けと帯結び・袋帯二重太鼓(六通柄・全通柄)・帯揚げ、帯締め <small>の</small> 整え方 総仕上げ(査定)のための特訓・時間を図る	

見 本

保健 シラバス (専門 課程) 令和 3 年 月 日作成 作成者

1. 教科・科目名	保健		
2. 教員名			
3. 時間数・単位	1年次 30時間 2年次 60時間 (2年間 90時間 3単位)		
4. 科目の目標	①人体の構造と機能について具体的な知識を持ち、美容技術と保健との関連性について学ぶ。 ②美容師国家試験問題対応基礎力修得。		
5. 使用教材	教科書	(社)日本理容美容教育センター	
	問題集	日本能率協会マネジメントセンター(美容師国家試験過去問題集)	
	その他	(社)日本理容美容教育センター (ワークブック)	
6. 評価の方法	期末テスト評価	年2回 合計200点	
	平常学習評価	授業態度	
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	知識・理解	美容師に必要な解剖学、生理学等の基礎知識をつける。	
	国家試験対策	美容師国家試験の筆記試験対策として問題の解き方を理解している。	
	関心・意欲・態度	授業時間を有効に使っている。	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	80～89点	4
	おおむね達成している者	60～79点	3
	達成が不十分な者	31～59点	2
	達成が著しく不十分な者	0～30点	1
9. 学習の方法	教科書と映像等を用いた講義形式で行う。教科書の内容についてまとめたプリントで確認を行う。		
10. 指導内容			
科目名	単元	指導内容	
保 健	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	人体各部の名称、頭部・顔部・頸部の体表解剖学について学ぶ。	
	骨角器系	骨の種類と構造や骨の連結等を学び、骨格器系とそのはたらきについて学ぶ。	
	筋系	筋の種類と特徴及び表情筋と表情運動、主な骨格筋とそのはたらきについて学ぶ。	
	神経系	神経系の成り立ち、中枢神経と末梢神経のはたらきについて学ぶ。	
	感覚器系	視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、臭覚、皮膚感覚のそれぞれについて学ぶ。	
	血液・循環器系	血液循環の仕組みと循環経路及び、心臓、リンパ管器系のはたらきについて学ぶ。	
	呼吸器系	気道、肺の仕組みとガス交換、呼吸運動について学ぶ。	
	消化器系	消化管の仕組みとはたらき、消化と物質代謝について学ぶ。	
	皮膚の構造	皮膚の表面や断面、表皮・真皮・皮下組織について学ぶ。	
	皮膚付属器官の構造	毛、脂腺(皮脂腺)、汗腺、爪の構造及びはたらきについて学ぶ。	
	皮膚の循環器系	皮膚の血管、リンパ管の構造と働きについて学ぶ。	
	皮膚の神経系	皮膚の神経の構造及び働きについて学ぶ。	
	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	対外保護、体温調節、知覚作用と皮膚反射、分泌排泄、呼吸、吸収、貯蔵、免疫・解毒・排除、再生等の各機能について学ぶ。	
	皮膚と皮膚付属器官の保健	皮膚と全身・精神・栄養・嗜好品・体内病変等との関係、ホルモンとの関係、皮膚・毛・爪の手入れ等について学ぶ。	
	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の原因と種類、各皮膚疾患の詳細について学ぶ。	

1. 教科・科目名	総合(ブライダルヘアメイク)		
2. 教員名	杉山 伎以子		
3. 時間数・単位	1年次 15 時間 2年次 時間 (2年間 15時間 単位)		
4. 科目の目標	①ABP検定ドレススタイリスト検定合格 ②ブライダルの知識と技能の習得		
5. 使用教材	The Business of Japanese Weddings / The Business of Weddings Attire & Styling(ABC協会) ヘア・メイク道具一式		
6. 評価の方法	模擬テスト・ドレススタイリスト検定得点 / プランナー検定2級合否等加点		
7. 評価の観点	観点	趣旨	
	検定対策	スタイリングを理解し、ドレススタイリスト検定合格ライン到達	
	知識	ブライダルに関する基礎知識を理解する	
	技能	ブライダルにおけるヘア・メイクの技術の基礎を習得する	
8. 評価・評定の基準	達成度	評価	評定
	特に高い程度に達成している者	90～100点	5
	高い程度に達成している者	75～89点	4
	おおむね達成している者	55～74点	3
	達成が不十分な者	30～54点	2
	達成が著しく不十分な者	0～29点	1
9. 学習の方法	知識に関しては、テキストを中心に学習		
	検定対策はプリント作成し、配布		
	技術は実習をおこない習得		
10. 授業計画			
科目名	回	単元	指導内容
ブ ラ イ ダ ル	1	衣裳店の市場と実務	衣裳店の種類・市場の分析
	2	ドレスの構造・デザイン・小物・サイズ	ドレスデザインの名称・構造の特徴・小物(ベール、アクセサリなど)のコーディネート
	3	体型別スタイリング・ヘアスタイリング	目的別スタイリングのポイント・ヘアメイク、スタイリングの理解
	4	ブライダルパーティ 男性洋装	洋装のフォーマルウェアについて・男性礼装について
	5	和装衣裳 列席者の衣裳	新郎・新婦の和装について 列席者別の衣裳の種類
	6	ドレススタイリング検定直前対策	検定予想問題の解説と解答
	7	ドレススタイリング検定直前対策	検定予想問題の解説と解答・模擬テストの実施
	1	補充授業	プランナー検定2級 直前対策
	2	補充授業	プランナー検定2級 直前対策
	1	ブライダル実習	ウェディングドレスorカラードレスのヘアメイクデザインと作成の実習
2	ブライダル実習	ウェディングドレスorカラードレスのヘアメイクデザインと作成の実習	